

「防災を考える」講演会を開催しました

多治見砂防国道事務所では、平成23年8月26日(金)に「防災を考える」講演会を開催しました。講演会は、3.11東日本大震災の発生後、各市町村では「地域防災計画」の見直しや、「防災まちづくり条例」の制定に向けた検討が始まるなど、地域の防災を考える取り組みが活発になっていることを受け、行政機関の方々に留まらず、地域ボランティア団体の方々や、地域事業者の方々の更なる意識の高揚と、今後の地域防災の一助となるよう企画されました。

演題:「土砂災害とリスクコミュニケーション」

講師:セコム株式会社IS研究所 主任研究員 三島 和子氏

地域防災に重要なリスクに関する情報伝達、共有、相互理解について、貴重なお話を聞きました。また、講演に先立って、多治見市消防本部南消防署 特別救助隊 副隊長 原 路哉氏から、東日本大震災での支援活動(行方不明者の捜索活動)を報告していただきました。

東濃5市と木曽南部3町村の全ての首長さんにご聴講いただくなど、聴講者は300人を数え、盛況のうちに講演会を終えました。

今回の講演内容を、今後の地域防災、地域連係に活かし、想定される東海・東南海・南海地震の三連動地震に活かして行きたいものです。



講演中の三島 和子氏



開会挨拶
東濃砂防協議会会長
大山中津川市長



閉会挨拶
東濃砂防協議会副会長
加藤土岐市長



講演会場の様子



東海、東南海、南海地震に備える!

支援活動報告
原 路哉氏



三島氏に
質問中

講演会会場
1階ロビーにて
東日本大震災
パネル展を
開催しました

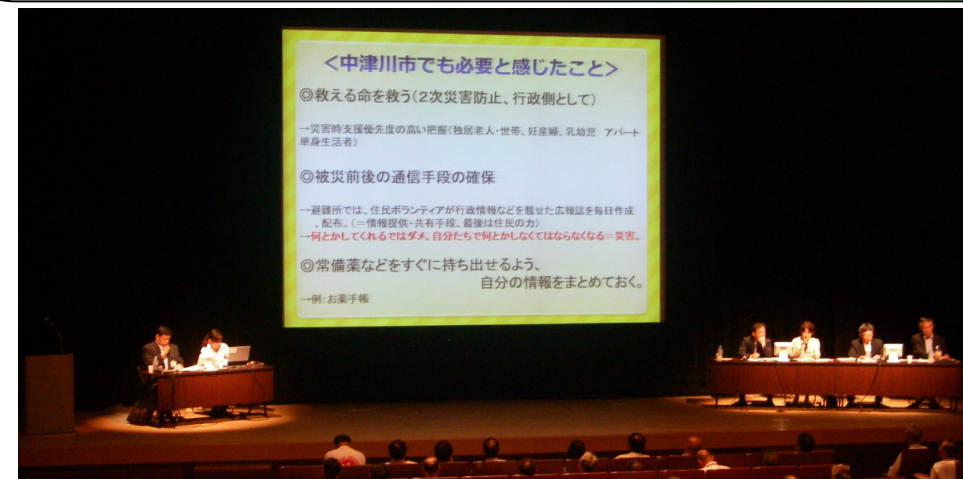


中津川「治山・治水の日」砂防講演会2011に協賛しました

平成23年8月27日(土)に中津川市中津地区災害対策協議会主催の、「治山・治水の日」砂防講演会2011に多治見砂防国道事務所として協賛しました。

毎年8月26日は中津川市の「治山・治水の日」と制定され、昭和7年8月26日に中津川市内の四ツ目川で大規模な土石流が発生した「四ツ目川大水害」の教訓を風化させることなく後世に伝えるものとされています。

砂防講演会は東美濃ふれあいセンター(歌舞伎ホール)にて「防災力」をテーマに体験談の報告とパネルディスカッションを行いました。体験談は東日本大震災の支援活動として、中津川市基盤整備部小栗主任技師と国土交通省中津川出張所 山根技術係長より報告していただきました。パネルディスカッションでは「地域防災力の向上のために」と題して、パネリストとして地元自治会等から4名と、アドバイザーとしてセコム株式会社IS研究所 主任研究員 三島 和子氏、コーディネーターを今井事務所長が務め、東海地震の強化地区に指定されている中津川市の自然災害対策のこれからのあり方について意見交換を行なうとともに、アドバイザーの三島氏よりリスクマネジメントの観点からアドバイスをいただきました。傍聴者は400名を越えました。



パネルディスカッション

東日本大震災から学ぶ!!
山間地域における自然災害に対する地域防災力の向上のために



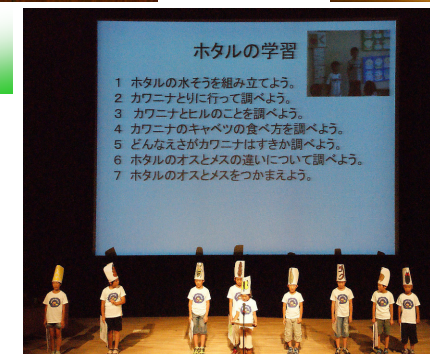
アドバイザー(三島 和子氏)
コーディネーター(今井事務所長)



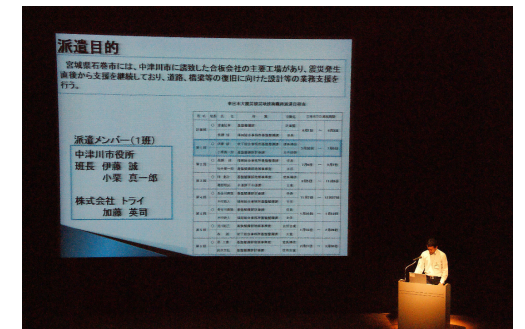
パネリストのみなさん



支援活動報告 山根係長



小学生の研究発表
(ホテルの学習)



支援活動報告 小栗主任技師